

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.87/2020.10]



「quiet place」 葉栗里さん作

Special

犬山市の からくり人形



からくり人形
専門の展示館

犬山市でこの六月、「IMASEN犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房」(以下、からくりミュージアム)がオープンした。もともとあったからくり展示館の老朽化に伴い、新たに建築、内容をさらに充実させてスタートしたものだ。

からくり人形には二つのタイプがある。一つは、祭りの山車に乗せる「山車からくり」。そしてもう一つは、茶運び人形に代表される「座敷からくり」だ。この両方を網羅した展示施設は、おそらく日本ではここだけだ。だからこそ、「ここを拠点として日本のからくり文化を犬山から世界に発信す

る」という使命を自負する。それは、連綿と続いてきたからくりの技や創意工夫に、愛知のモノづくりの心が見えると言われ、関係しているだろう。



今回はそんなからくりミュージアムの紹介を兼ねながら、からくり人形という伝統文化に触れていきたい。

個性豊かな山車からくり

愛知県の尾張地域では、各地の祭りで山車からくりを見る機会がある。そのいくつかはユネスコ無形文化遺産にも登録された。犬山市で毎年四月に行われる犬山祭の山山行事もその一つで、国指定重要無形民俗文化財にも指定されている。

からくり人形達の華麗なパフォーマンスを見た人も多いだろう。ちなみに、犬山祭の車山は三層構造、高さ八メートルにも及ぶ。(犬山市では敢えて「車山」と書き、「やま」と呼ぶのだ)

江戸時代から続くからくり人形を搭載するのは、十三町内の十三輛。互いにリスペクトしつつ、わが町のからくりを誇らしく披露する。十三輛のからくり全てが異なり、驚きの動きをする。

その動きを司っているのが、車山の二層目に陣取った人形使いの面々だ。

例えば、彼らが手にする何本もの糸。人形一体につき十八本ほどを、四〜五人で操る。まさに糸からくりだ。使い手達は窮屈な思いをしながらも、ストーリー

に合わせて次々に糸を操作し、人形の動きを滑らかに作っていく。

一方、差し金などを使って、人形が飛んだり跳ねたり、サーカスのような動きをするのが、離れからくりだ。乱杭渡りや綾渡り、大車輪がそれに当たる。



九代玉屋庄兵衛さんがデモンストレーション用に制作した「からす天狗」の乱杭渡り。

からくりミュージアムには十三町内の内、七町内分の人形等が展示されている。祭り際には五メートル以上も上の三層目で演技する人形達を仰ぎ見るのだが、からくりミュージアムなら至近距離でまじまじと見ることが出来る。

「人形はかなり大きい」というのが第一

印象。だが展示物だけではどんな仕掛けがあるのか分からない。やはり、からくり人形は動いてこそその魅力だ。そこで、館内で人形の動きを見せるために、からくりの解説ビデオを流し、からくり人形の実演も行う。さらに、展示物の紹介にQRコードを付け、携帯電話やスマートフォンで動画をチェックできるようにしている…と工夫を凝らしている。

からくりの舞台裏を見ると、「そんなところに仕掛けが?」と思わず声が出る。映像を見て、チームワークが重要なことも納得。

「人形の動きと笛・太鼓の音色が合って最後までスムーズにやり切ると、気持ちよく、達成感がありますよ」とは、祭りで人形を使った経験者の感想だ。



からくりミュージアムの柱は車山を思わせる造り。犬山らしさを取り入れながら、からくり文化を盛り上げていく。

ゼンマイ仕掛けの座敷からくり

ほとんどを人力で操作する山車からくりに対して、座敷からくりはクジラのヒゲを使ったゼンマイや歯車などを利用して自動で動く。よく知られているのは茶運び人形や文字書き人形で、こちらはこじんまりとしたサイズ。それだけに動作が健気で、可愛らしい。



茶運び人形

座敷からくりは犬山市特有のものというわけではないが、モノづくり愛知の、そして日本を代表するからくり技術の粋を集めた自動人形として、からくりミュージアムの展示の一翼を担う。



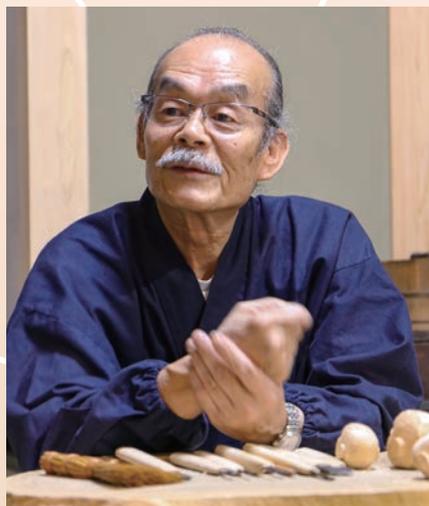
や歯車などの内部構造が見えて、本当にロボットみたいだ。ちなみに茶運び人形の動作のスイッチは湯呑みだ。両手で持つ茶托に湯呑みを置くと、その重量でスイッチが入り、畳一畳分をトコトコと移動する。湯呑みを取ると止まり、再び湯呑みを置くとUターンして戻っていくという仕掛けだ。畳一畳分以内であれば、回転距離は自由に設定できるのだという。そんな機械

茶運び人形に使われる7種の木材



ロボットの原型とも言われる座敷からくりが、すでに一六〇〇年代に完成されていたと聞いて、びっくり。戦国時代に渡来した時計の技術が応用されているのだという。茶運び人形は一九七〇年の大阪万博でロボット館に展示されて評判を呼び、以来、世界でも高評価を得ている。

衣裳を脱いで、ボディのからくりをすっかりさらけ出した茶運び人形は、ゼンマイ



九代玉屋庄兵衛さん 今年、愛知県芸術文化選奨を受賞。

れるのは全国でここだけではないですか。愛知県には四〇〇輛以上の山車があり、からくり人形は三七〇体以上あります

が、その中で犬山のからくり人形は戦災で燃えていない。非常に貴重です」

と、九代目。からくり人形は長い年月動かす間に、どうしても修理や復元が必要になってくる。

「十三町内のうち、九町内の復元をしています。図面はなく、実物を見て復元していく。十三町内あれば、十三の仕掛けがある。人形の顔とかも、町内の皆さんが見て育ってきたわけですから、そういうものは忠実に復元します。国の文化財なので材料も変えません」



一方、注文に応えて作る茶運び人形にはオリジナル性も加えるという。「創作の場合は自分の好きな顔にしてみました(笑)。僕は、十人が見て十人が『可愛い』と言っ

て十人が『可愛い』と言っ

仕掛けについて目を奪われがちだが、人形の顔にも注目してみよう。からくりミュージアムには三体の茶運び人形が並んで展示されている。人形師であり、山車からくりの修復にも尽力してきた玉屋庄兵衛の七代目、八代目、九代目の力作が並んでいるのだ。七代

毛、顔の作りも全て一人で行う。からくりミュージアムでからくり人形の制作工程を公開しているのは、少しでもからくり人形について知ってもらい、からくり文化の活性化をめざすからだ。「からくりの魅力は手品の面白さでしょう。このミュージアムで、ぜひ近くから見てください。これだけ近くで見られるところはありません。人形の顔の表情もすごくよく分かります。角度によって表情も変わります。そういう作りをしていますから、どれも完成された、いい人形だと思いますよ」

てもらえる人形を作りたいと思っています」

分業ではない。自分の手に合った道具作りから始めて、内部のからくりはもとより、衣裳や髪

展示してあるものを見る。動いているものを見る。作っているところを見る。

この三つの見るからくり人形の世界に一歩足を踏み入れるのが、からくりミ



文字書き人形

目はおつとりとした顔、八代目は少しきつめ、九代目は可愛らしく...と、微妙な表情の違いを見極めるのも、風流な茶運び人形の鑑賞方法かもしれない。

玉屋庄兵衛さんに聞く

人形師の玉屋庄兵衛が犬山市と関わりを持ったのは、二百年ほど前に三代目が外町の「梅梢戯」の梅の木で倒立する唐子を制作した時からという。現在は九代目。尾陽木偶師として名古屋市北区に工房を構えるが、からくりミュージアムでも一画を工房とし、毎週金土に、人形作りの技を公開している。「山車からくりもあれば、座敷からくりもあり、これだけの人形を一堂に見ら



ユージアムの醍醐味。知れば知るほど、今度は祭りでからくり人形を見てみたくなる。今年の犬山祭は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまったが、四百年近いからくり人形の歴史からすれば、乗り越えられないことではない。からくり人形の知恵と技術、そして遊び心は、これからも市民の中で脈々と受け継がれていくのだろうから。



IMASEN 犬山からくりミュージアム 玉屋庄兵衛工房

犬山市大字犬山字北古券8番地
TEL.0568-61-3932
FAX.0568-61-3932
開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日 12/29~12/31 ※展示変更または整理期間
観覧料 一般:300円 中学生以下:無料
※からくり人形の実演は平日①10:30 ②14:00、土日祝①10:30 ②14:00 ③15:30
大小約40体のからくり人形を擁し、制作道具や関連資料も展示。

私は、絵画鑑賞が趣味です。絵を観ていると癒され、心が豊かになる感じがします。特に美術館で観る本物の絵は迫力が違いますね。本でしか観られなかったものが観られるというのは、すごくいいです。

私は旅行も好きなので、美術館を巡って海外や国内をいろいろ旅しました。とは言っても、40代後半まで、海外旅行は新婚旅行で行った1回だけ。仕事が忙しくてなかなか行けませんでした。でもある時、「ちよつと待て。人生は1回。いつ死ぬかわからないから、今を大切に生きていかな」と、あとで後悔する」と、思ったのです。私は父を50歳で亡くしているので、より強くそう思ったのかもしれない。

それで、「これからは、仕事もしつかりやって、遊びもしつかりやろう」と、セントレアが開港した2005年、47歳の時に妻とフランスへ行きました。ルーブル美術館やオルセー美術館、モンサンミッシェルなどに行きましたが、すごく楽しかったです。それから毎年、自分でプランを立て、海外旅行を楽しんでいます。海外の主だった美術館に行きましたが、イタリアのウフィツィ美術館やスペインのプラド美術館などは印象深いですね。国内では、大原美術館や大塚国際美術館が好きです。大塚国際美術

館は、西洋名画を複製した陶板名画が展示されていて、写真を撮ったり触ったりできて面白いですよ。本物はないですけど(笑)。

海外を訪れた時に感じたのが、海外と日本の芸術や文化への接し方の違いです。海外の美術館の多くは入場料が無料で、写真撮影もOK。また、海外のある美術館では子供達が床に座って、絵を模写している風景を目にしました。日本では少し考えられないことでも、海外では普通なんですよ。美術館は、子供の頃からすごく身近な場所、誰もが気軽に立ち寄れるように工夫されているなど感じました。絵画やオブジェ、音楽、演劇が、海外では生活の一部になっているけど、日本はなっていないように感じます。私自身は、妻が画家なこともあり、すごく身近にあるものですが。

妻は名古屋を中心に個展をはじめ、音楽とのコラボレーションも行っています。実現はしませんでした。お魚をテーマに絵を描いていることから、水族館で絵を展示する話もありました。この企画のきかけとなったのが、シンガポールの水族館で参加したダイナーイベントです。閉館後に巨大水槽の前でダイナーをし、その後水族館を見学できるという、50人くらいの貸切りイベントでした。これがなかなか良くて、「こ



芸術や文化が、もつと身近なものになるといいですね。
伊藤行記 (愛知銀行取締役頭取 愛銀教育文化財団理事)

■伊藤行記 プロフィール

1958年、三重県四日市市生まれ。名古屋大学経済学部卒。1980年、(株)中央相互銀行(現愛知銀行)入行。行員として様々な経験を積み、2010年に事務統括部長に。以後、取締役業務監査部長、取締役証券外国部長、常務取締役を歴任し、2019年6月から現職。趣味は旅行、ドライブ、絵画鑑賞、ゴルフ。好きな言葉は「今を大切に生きる」「一期一会」。愛知県の経済・文化の発展に一助を担う地域銀行として仕事に邁進しながら、充実した毎日を過ごしている。



活躍できる場が、もつと増えることを願います。

ひしと伝わってきます。そういった方々の活動を手助けする愛銀教育文化財団の助成活動は、地道な活動ですが、とても大切だと思えます。そして、30年続けてこれらことは、非常に意義があります。

「ういうやり方があるんだ」と楽しくなりました。大英博物館でも、閉館後に演奏を聴きながらダイナーをしたことがあります。こういった少し視点を変えて、何かとコラボレーションして見せるということ、面白いですよね。例えば、そこに一つでも興味があるもの、面白いと思うものがあれば、人は参加します。参加することで、それまで興味のなかったものに触れられる機会が生まれ、新しい楽しみを発見することになるのではないのでしょうか。そういった場が、もつと増えていくといいですね。

名古屋は「芸どころ」と言われる一方で、「文化不毛の地」とよく言われます。有名な作品の展覧会や舞台などは、すごく多くの人が集まりますが、セミプロやアマチュアの方々の展覧会や舞台となるとなかなか難しい。文化小劇場も多々あり、いろいろなプログラムも充実していますが、人々の関心度が低いという。好きな人以外には、なかなか受け入れられない。文化の底が浅いのかな。実際に、妻の友人で演劇をされている方がたくさんいますが、皆さん、集客や資金面で本当に苦労されています。芸術や文化を担う人たちの苦労はひし

また、名古屋には徳川美術館や古川美術館など素晴らしい美術館もあります。そういった美術館がもつと認知され、興味をもたれるようになれば、名古屋の芸術・文化ももつと活気づくのではないのでしょうか。これからも、愛銀教育文化財団が末永く続けられるようにしていきたいです。そのためには、母体である愛知銀行が末永く続いていかなければいけません。そこは、しつかりやっていきます。そして、地域とともに発展し、一緒に芸術と文化を盛り上げていきたいですね。―談―

外国人向けの日本語教室の中でも、足立詠子さんが主宰する日本語教室『これなあに?』のように、対象が0歳〜3歳児の外国人親子というのは、全国でもほとんどないのではないかと。

場所は豊田市。集いやすい豊田市駅近くの豊田市国際交流協会で、毎週木曜日に開いている。参加者は中国、パキスタン、ネパール、インド、ブラジルなど10か国ほど。

「前半は、月毎のテーマに沿って絵本を読んだり、簡単な工作をしたり。勉強じゃなくて、遊びながら子供達が日本語のシャワーを浴び、気付いたら日本語が身についていた、気付いたら友達が出来ていたというように、自然な感じがいいな」と思っているんです。



足立さん自身も二児の母。長い目で子供達の成長を見守っている。後半は、子供のお母さん達のトークタイムだ。共通語は日本語だが、盛り上がりると英語やそれぞれの母語も飛び出すらしい。日本で暮らす外国人が日々の悩みや疑問を互いに打ち明けられる場所であり、実はこちらのほうが目の前の異文化交流として成果を上げているのかもしれない。

「前回は、月毎のテーマに沿って絵本を読んだり、簡単な工作をしたり。勉強じゃなくて、遊びながら子供達が日本語のシャワーを浴び、気付いたら日本語が身についていた、気付いたら友達が出来ていたというように、自然な感じがいいな」と思っているんです。

足立さんの人間力か。開講から1年。この夏は新型コロナのため、オンライン教室を実施。それも「新たなチャレンジ」と前向きだ。まだ手探りの部分もあるが、持ち前の行動力で、子育てをベースにした多文化共生のモデルを作っていく。「子供が喜んでくれたら一番嬉しい。それが私のモチベーションです!」



多文化親子交流をめざして。楽しみながら言葉の壁を越えて行こう。

在住外国人のための0歳児から始める日本語教室
足立詠子さん
第30回助成(個人)

埼玉県出身。大学で国際福祉を学び、Bangladeshを訪問。卒業後は民間企業で社会経験を積み、2012年6月から2年半、青年海外協力隊としてBangladeshで学校保健教育の推進活動に従事。帰国後、結婚して豊田市へ。2017年、青年海外協力隊の仲間と共に国際理解教育勉強会(AIUEO)を立ち上げ、毎月1回、愛知県内でワークショップや勉強会を開く。また、中部大学春日丘高校で海外交流アドバイザーを務める。2019年7月、日本語教室をスタート。外国人親子、日本人親子が共に参加できる環境づくりなど多方面で活動中。



愛知中世城郭研究会の研究対象は、愛知県をメインとしつつも、全国、海外の城郭にも及ぶ。会員も然り。愛知県民でなくても自由に参加できる。

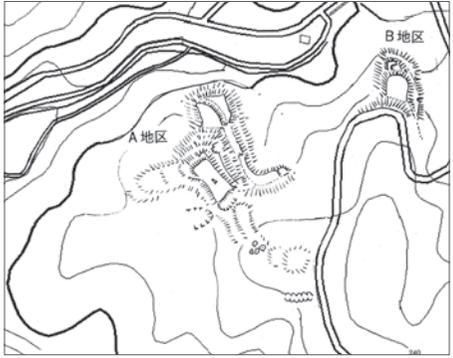
「会費なし。会長もいない。参加自由というゆる〜い会です(笑)。さすがに例会では会場費として5000円、機関誌は製作費として1万円を徴収しますが、それも学生の会員は免除です」

とは、研究会の機関誌『愛城研報告』を編集する石川浩治さん。言わば事務局長だ。発足から30年。約30名の会員は、歴史の専門家から学生、主婦、大工、和菓子屋...と幅広い。入会資格はただ一つ、「城好き」であることだ。

中世の城郭とは戦国時代あたりまでのもので、江戸時代以降築造された名古屋城などは違い、天守も石垣もない、土造りの城が多い。

「愛知県に中世の城は1500以上あったんです。武田氏、徳川氏、今川氏といった城が混在していて、面白いですよ」

そんな城も時代を経て、今や形もなくなっているのは素人の目で、石川さん達の目は、地籍図や聞き取り調査などから得た



わずかな情報を手掛かりに、想像力を発揮して、城の構造を探り出していく。その構造から埋もれていた歴史を明らかにする。それが中世城郭研究の醍醐味だという。「縄張り研究というのがあり、地図で城郭跡の当たりを付け、現地で歩測や簡易測量機で堀跡などの距離を測ります。それを縄張り図にまとめます。一定の歩幅になるように、歩測の訓練もするんですよ」

本格的な測量調査や発掘調査とは別の、中世城郭を描き出す最初の一步だ。研究成果は機関誌に掲載されたり、例会で発表される。「例会では発表と同じぐらい議論に時間を費やします。けっこう辛口です(笑)」

年齢もキャリアも関係なく白熱する、その議論こそが継続の秘訣かもしれない。研究会の願いは若い世代の台頭だ。城郭に興味がある人に、石川さんがまず勧めるのは、新城市の古宮城や、豊田市の大給城。それに、私達の周囲にも中世城郭の遺構がまだ眠っているかもしれない! ほら、ワクワクしてきたのでは?!

上記は石川さん作の渡邊津城縄張り図(抜粋) ※出典:『愛城研報告』第22号



城好きの想像力を駆使! 時の流れに埋もれた城郭を描き出す。

中世城郭の研究・調査
愛知中世城郭研究会
第30回助成(団体)

愛知県の中世城郭分布調査に携わったメンバーで始まり、平成3年に研究会として発足。年齢・職業に関わらず、参加自由。最近では女性会員も増えてきた。縄張り研究をはじめ、文献、考古学、建築、歴史地理学等、調査方法も会員個々の自由。室内例会と見学会、機関誌『愛城研報告』の発行をベースに、市民向けの講演会等も開催。「瀬戸の中世城館」「豊橋・豊川の中世城館」などを発行。一般向けの『愛知の山城ベスト50を歩く』『三河岡崎城』の編集にも携わる。最近では岡崎市の雨山城の調査を地元の人々と行った。



石川浩治さん

2020年7月

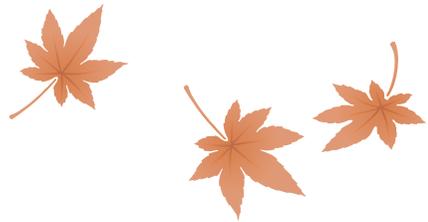
- 堀 龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人
堀 龍太郎 展[Art Salon 金工堂(名古屋市中区)]

2020年8月

- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
公演 戦後75年企画〜ヒロシマ、ひろしま、広島〜
「はだしのゲン」
〔名古屋舞台芸術協会スタジオ(名古屋市中区)〕
「父と暮らせば」「夢千代日記」
〔愛知県芸術劇場小ホール(名古屋市中区)〕
- 森 克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人
森克徳 陶芸展[松坂屋本店 美術画廊(名古屋市中区)]

2020年9月

- 鈴木孝幸さん(現代美術) 第28回助成・個人
展覧会「砂地で本を読む」[旧門谷小学校(新城市)]



新型コロナウイルスの影響により、舞台やコンサート、展示会など予定されていた活動を中止、また自粛されている“仲間”の方々も多いと思います。

一日も早く新型コロナウイルスが終息し、皆様が安心して活動できる日が訪れることを願っています。

仲間達の近況メモ

書籍・会報誌等の発行

- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
5～9月…「江南郷土史研究会会報」495～499号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
5～9月…郷土文芸誌「駒来」第580～584号発行
- はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体
5・7月…「はんだ郷土史だより」第90号・第91号発行
- まつり同好会 第25回助成・団体
5・7月…「まつり通信」607・608号発行
- 守山リス研究会 第19回助成・団体
5～8月…「リス研通信」NO.4998～5077発行
- 小林清司さん(郷土史) 第24回助成・個人
6月…「愛知県岡崎市 山中学区の石造文化財」「愛知県岡崎市立図書館の歩み(資料集)I再編集私家版増補 出版物補記」を出版
- 愛知歴史研究会 第7回助成・団体
6・8月…「あいち歴史会誌」第165・166号発行
- 野田史料館 第1回助成・団体
6月…「野田史料館報」第157号発行
- 語人サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
6月…「轍(わだち)」No.4発行(平成30年度 知立文化芸術新人賞(活動15年)、令和元年 豊田文化新人賞受賞記念誌)
- 春日井郷土史研究会 第15回助成・団体
8月…「春日井郷土史」第6号発行

*ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

●作者の言葉
深海にゆらめく魚と人間の一場面を想像して制作しました。彼らは静かな場所、それぞれ独立した存在として関係しています。人間側からの見方をするか、自然の中の一要素としてのモノにすぎないのか、それは見る人に委ねたいです。



「quiet place」
縦155×横100×奥行50cm
木彫に彩色(桶、アクリル絵の具)
葉栗 里さん作(第25回助成)

表紙作品

●編集後記
今年はお祭りが新型コロナのために中止になったところも多いかと思えます。とりわけ愛知県は山車からくりの文化が色濃いため、いろいろな動きで観客を魅了する人形達に会えないのは寂しいかぎりですね。
山車からくりや座敷からくりといった日本の伝統的ながらくり人形は、上から糸で操るのではなく、内部の仕組みによって動きます。だから、まるで人形が自らの意思で動いているように見えます。それぞれの仕組みの謎解きは、犬山からくりミュージアムでやってみよう。

菊里高校の器械体操部は、名古屋市立高校ではここだけという珍しい部活だ。部員は、意外にも未経験者が多いという。「高校生になって新しいことを始めたい、珍しくて面白そうと思うみたいです。チャレンジ精神旺盛な生徒が多いですね」と、顧問でOBの山口里江先生。器械体操は、男子は床・吊り輪・平行棒・鞍馬・跳馬・鉄棒の6種目、女子は段違い平行棒・平均台・跳馬・床の4種目がある。大会では各種目の総合点数で競われるため、全種目を練習する。

「その日の練習内容は、自分で相談して決め、2年生が1年生に教えることも多いです。自分達で削り上げていく部活だと思えます」と、キャプテンの竹下そらさん。お互いに教え合い、「がんばー！」と声をかけ合って切磋琢磨する姿があった。技は、できないを積み重ねて、ある時、パツとできるようになるという。達成した瞬間、一緒に練習してきた仲間と喜びを分かち合う。個人競技だが、それを感じさせない仲間との繋がりが、楽しさの源であるようだ。



器械体操部では、大会以外の発表の場として、平成28年より1年に1回、独自の競技会『菊里杯』を新体操部とともに開催している。競技とエキシビションの構成になっており、企画・運営はすべて生徒が担当。エキシビションでは、バイオリンの生演奏と合わせたリ、ミュージカル仕立てにするなど、毎回テーマを決め、体操をエンターテインメントとして披露。体操の魅力、面白さを多くの人に伝えている。「当日はトラブルもあつたけど、うまく成功できたかなと思います」と、第4回(平成31年)の実行委員会のメンバー。トラブルが起きた時にきちんと対応できたことで、自信が持てるようになったと言った時の顔は、とても輝いていた。

器械体操は、舞台上に立った時にいつもと同じ100%の力で臨めるかどうかが大変になってくる。そのためには、ひとつでも多くの成功体験や失敗体験を積んでいくしかない。どんな時でも堂々と伝えられる力。そんな、山口先生が望む「生きる力」を、生徒たちは器械体操を通して身につけていく。



器械体操部・新体操部

“できない”を繰り返し、こつこつ練習。できた時の喜びをめざして。

器械体操部
名古屋市立菊里高等学校
第30回援助(高校生)

昭和22年に創部。昭和の時代には日本代表選手も排出した歴史のある部。現在は山口先生を顧問に、部員数は1年生と2年生で17名。新体操部とともに体操部として活動。外部指導者2名の指導も受けている。毎年、愛知県高等学校総合体育大会 体操競技大会に出場。平成31年の大会では、男子が団体で3位、女子が2部団体で3位・2部個人で6位に。団体は毎回3位以上の好成績を収めている。「自分の弱さや失敗を恐れず、何事も一生懸命取り組み、どんな時でもブレない心を作っていってほしい。」と、山口先生は生徒達にエールを送り続けている。

顧問
山口里江先生



部長
竹下そらさん

第4回実行委員メンバー
相原すみれさん
坂元歩羽さん
白井朋香さん



第31回(令和2年度) 助成および援助対象先決定 (敬称略)

様々な文化や教育は、私達に笑顔と元気をもたらしてくれます。選考委員会の厳正な審査の結果、アクティブに活動されている25組の新しい“仲間”が加まりました。

一般助成 個人

- 伊藤美由紀……作曲、CD発売、コンサートの企画・開催
- 神谷美紀子……ヘルマンハーブの演奏活動と、体験的演奏会を開催
- 柳河瀬貴子……クラシック音楽をフルート、ヴァイオリン、チェロ、ピアノ、歌で演奏する音楽会の開催
- 神村泰代……植物(綿)を使った公共的アート作品の制作、ワークショップの開催
- 齊と公平太……美術作品の制作と発表
- 下平知明……彫刻表現の研究と実践
- 田口友里衣……現代美術としてサイトスペシフィックなガラスの作品を発表
- 山本正名……江戸時代に書かれた郷土の古記録の調査研究、翻刻、出版

一般助成 団体

- 食アレスマイルネット……絵本を使った食物アレルギーの啓発活動
- 東海化石研究会……地学、化石の研究及び社会教育活動。古生物学会・博物館等への協力
- 大学国際保健ボランティア……名古屋大学・中部大学の学生を対象に、環境活動と教育の機会を提供
- おもちゃばこキネン合奏団……オーケストラの名曲を独自のサウンドで演奏
- 劇団 天白月夜……公演やワークショップの開催。地域や施設のイベントへの参加
- 劇団クセックACT……ディルソ・デ・モリーナ作品を公演
- NPO法人 むすめかぶき……日本の伝統芸能・文化の普及・啓発活動
- 黒川治愿顕彰会……黒川治愿氏の石碑の内容・所在等を調査
- めりーらいん連絡会……公共・大学図書館の連携を通し、市民への医療・健康情報の提供等
- NPO法人 歌舞伎と演劇文化を守る会……演劇愛好家の育成と、演劇文化保持発信拠点の運営

高校生の文化および体育活動への援助

- 愛知県高等学校文化連盟……歌舞伎鑑賞会
- 愛知県高等学校文化連盟……狂言鑑賞教室
- 愛知県立津島北高等学校……演劇部
- 愛知県立名古屋西高等学校……美術部
- 愛知高等学校……ハンドボール部
- 愛知県立成章高等学校……弓道部
- 愛知県立横須賀高等学校……陸上競技部



あゆち第87号●2020年10月

発行:公益財団法人愛銀教育文化財団

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号

愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)

